

講 演 大 会 記 事

第 88 回講演大会

第 88 回講演大会は 11 月 3 日 (日), 4 日 (月), 5 日 (火) の 3 日間近畿大学において開催され, ついで 6 日 (水) 見学会が行なわれた. また 11 月 3 日には臨時総会が開催された.

開 会 式

開会式は田畑専務理事司会のもと 11 月 3 日午前 9 時 40 分より 21 号館 534 号教室において行なわれた. 初めに杉沢英男実行委員長代理久保慶正氏より歓迎の挨拶がつぎの通りであった. 「関西地区で昭和 45 年以来 4 年ぶりに開催されることは光栄である. さて昨年来の石油, 資源, 経済問題などわが国にとつては難しい問題が台頭しており, 加えて環境公害問題を早急に解決しなければならないという責務も抱えている. こうした問題を解決するためには, 新しい発想による永続性と, 信頼性のある技術開発を早急に推進する必要がある. そのためには技術水準の高い開発力とチーム・ワークのとれた強力な推進力が必要であり, またそのためには広汎な基盤知識をもち, 独創力の豊かな各分野の専門研究者や技術者と着実に育成と産学協力して新しい着想にもとづく研究開発が必要である. この意味において, この大会にわが国鉄鋼界の頭脳が一堂に会し, 研究発表と討論をしようことは意義深いことである.」

ついで, 作井会長より開会の挨拶が行なわれた. 「第 88 回講演大会にあたりご尽力賜わった杉沢実行委員長はじめ実行委員, 近畿大学に厚くお礼申し上げる. 今大会は講演数 345 件の多数となり, 会場も 11 会場使用することとなった. 今大会では, 一般講演の他, 特別講演会 4 件, 討論会も開催されることになっており, わが国のおかれた厳しい環境のもと, 今大会が一層有意義なものであることを期待する.」

臨 時 総 会

開会式につづいて, 正会員, 学生会員, 外国会員の入会金, 会費年額の値上げを内容とする定款中一部変更を議案として, 臨時総会が開催された.

山地理事より提案理由の説明があり, 原案通り承認可決された. 定款中変更されたのは次の通りである.

定款第 11 条正会員入会金を 400 円を 600 円に, 会費年額 4000 円を 5400 円に, 第 12 条学生会員入会金 200 円を 400 円に, 会費年額 2000 円を 2700 円に, また第 13 条外国会員入会金 450 円を 600 円に, 会費年額 4500 円を 6000 円に, 変更された.

表 彰 式

臨時総会につづき, 浅田賞ならびに第 6 回ヘンダーソン賞の表彰式が行なわれた.

受賞者 (表彰理由は〇〇ページ参照)

(浅 田 賞)

東京大学生産技術研究所所長

黒崎窯業(株)常務取締役八幡工場長

(ヘンダーソン賞)

科学技術庁金属材料技術研究所鉄鋼材料研究部鉄鋼第 2 研究室長

科学技術庁金属材料技術研究所鉄鋼材料研究部特殊鋼第 2 研究室長

科学技術庁金属材料技術研究所鉄鋼材料研究部主任研究官

科学技術庁金属材料技術研究所鉄鋼材料研究部鉄鋼第 2 研究室

鈴 木 弘君

宮 武 和 海君

河 部 義 邦君

金 尾 正 雄君

中 沢 興 三君

宗 木 政 一君

講 演 大 会

講演大会は製鉄, 製鋼, 加工, 性質 11 会場に分かれ講演発表が行なわれた. 講演発表数は製鉄関係 53 件, 製鋼関係 64 件, 加工関係 28 件, 性質関係 200 件, 計測, 分析関係 30 件と 345 件におよび各会場活況を呈した.

また上記講演のほか, 次のテーマによる討論会が開催された.

1) 炉底侵食の機構と対策

座 長 鈴 木 驍 一君

2) 連铸铸片の品質と内部性状

座 長 郡 司 好 喜君

3) 鉄 鋼 の 変 形 態

座 長 田 中 英 八 郎君

4) オーステナイト系ステンレス鋼の応力腐食割れの機構

座 長 大 谷 南 海 男君

5) 鉄鋼の靱性と転位論, その基礎と応用

座 長 橋 口 隆 吉君, 荒 木 透君

特 別 講 演 会

臨時総会について, 同会場浅田賞受賞記念特別講演 2 題が, また昭和 49 年 11 月 4 日午前 Prof. Eketorp 氏の特別講演が次のテーマで行なわれた.

1. 「鉄鋼工業の進歩と圧延理論」

鈴 木 弘君

2. 「最近の製鉄用耐火物の研究開発ならびに製造技術の動向」

宮 武 和 海君

3. 「A Proposal for a Future Steel Plant and Research Program」Prof. Suen Eketorp

懇 親 会

昭和 49 年 11 月 3 日午後 5 時 30 分より近畿大学本館地下食堂で日本金属学会と合同で開催された. 出席者 220 名